









決 裁	議 長	局 長	次 長	係 長	係 員
				 	  

派遣承認要求書

令和元年6月3日

栗原市議会議長 殿

会 派 名 政策フォーラム

代表者氏名 石川 正運



下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	1 令和元年7月2日(火) 午前7時00分から 2 令和元年7月4日(木) 午後5時00分まで
派遣先	佐賀県武雄市、大分県豊後高田市
派遣目的	・ICTを活用した教育の取り組みについて ・豊後高田市の教育ビジョンについて
経 費	372,640円
派遣議員氏名	石川正運 佐藤久義 佐々木嘉郎 三塚東
議長依頼文の要否	<input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 否
備 考	



栗原市議会「政策フォーラム」会派視察行程表

日程 令和元年7月2日(火)から令和元年7月4(木)まで

月日 (曜日)	行 程	発	着	摘 要
7月2日 (火)	栗原市役所 ～ 仙台空港	7:00	9:00	自家用車乗合
	仙台空港 ～ 福岡空港	10:10	12:15	ANA3110便
	福岡空港 ～ 博多駅	12:21	12:35	地下鉄
	昼食等			【昼食会場(未定)】
	博多駅 ～ 武雄温泉駅	13:31	14:39	特急みどり13号
	武雄温泉駅 ～ 武雄市役所	14:39	15:00	
	【行政視察(机上調査)】 「ICTを活用した教育の取り組みについて」	15:00	16:10	武雄市役所
	武雄市役所 ～ ホテル(武雄市内)	16:30	17:00	【宿泊先】 武雄センチュリーホテル(武雄市) TEL 0954-22-2200
7月3日 (水)	ホテル ～ 武雄温泉駅	8:30	8:45	
	武雄温泉駅 ～ 博多駅	8:49	9:53	特急みどり6号/博多行き
	博多駅 ～ 宇佐駅	10:19	11:57	特急ソニック15号/大分行き
	宇佐駅前 ～ 高田市役所前	12:15	12:28	大分交通/伊美行き
	昼食等			【昼食会場(未定)】
	【行政視察(机上調査)】 「豊後高田市の教育ビジョンについて」	14:00	16:00	豊後高田市【真玉庁舎】
	豊後高田市役所 ～ ホテル(豊後高田市内)	16:00	16:30	【宿泊先】 ホテルAZ豊後高田店 TEL 0978-23-1301
7月4日 (木)	ホテル ～ 高田市役所前	8:00	8:10	
	高田市役所前 ～ 宇佐駅前	8:13	8:23	大分交通/宇佐駅前行き
	宇佐駅 ～ 博多駅	8:47	10:22	特急ソニック12号/博多行き
	博多駅 ～ 福岡空港	10:36	10:41	地下鉄
	福岡空港 ～ 仙台空港	12:15	14:05	ANA3115便
	仙台空港 ～ 栗原市役所	15:00	17:00	自家用車乗合

視察研修結果報告書

令和元年7月31日

栗原市議会議長 佐藤 久義 殿

政策フォーラム

代表 石川 正運



視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

- 1 期 間 令和元年7月2日（火）～4日（木）
- 2 視察研修先 佐賀県武雄市、大分県豊後高田市
- 3 目 的 (1) ICTを活用した教育の取り組みについて
(2) 豊後高田市の教育ビジョンについて

4 調査研究内容

(1) ICTを活用した教育の取り組みについて（佐賀県武雄市）

佐賀県武雄市は、早くから教育のICT化（情報通信技術）に取り組んできており、
①タブレット導入の評価 ②委託事業の内容と効果 を調査した。

武雄市は、2010年12月に市内1小学校の1クラスに40台のタブレットパソコン（以下タブレットPC）を整備した。その後2011年2月には2校の小学校4年生以上の児童に236台のタブレットPCを整備した。2013年5月に武雄市ICT教育推進協議会より、「全小中学校の全学年へのタブレットPCの配布が望ましい」との答申を受けた教育委員会は、2014年4月に全小学校11校に1人1台のタブレットPCの運用を開始するとともに2015年4月には、全中学5校に1人1台のタブレットPCの運用を開始した。（2019年4月現在、小学生2,788人。中学生1,223人となっている。）

①タブレットPCの導入の評価として、武雄市での取り組みの改善とともに充実の目的で、産学官での効果や検証を行ってきたが、多くの児童や生徒が「学校に行くことは楽しい」とする回答など学習意欲の向上につながっている。

また、武雄市の取り組みで客観的指標で評価する目的で、日本教育工業協会が主催



る「学校情報化認定制度」を活用しており、平成28年度までに市内16小中学校のすべてが「学校情報優良校」の認定を受けるとともに、平成29年度には、「学校情報化推進地域」の認定を受けるなど、外部からも一定の評価を受けている。

②委託事業の内容と効果は、市内16小中学校に整備したICT機器などを有効に活用するため、ICT教育支援業務に従事する民間事業所の技術者を配置しており、技術面・運用面でのきめ細やかな助言と支援が行われている。その結果、学校教員の安心感につながっており、ICTを活用した授業の準備から実施までスムーズに行われている。

また、市内16小中学校のタブレットPCを含むICT機器及びソフトウェアの総合的な保守管理は、専門的な知識や技術が必要なことから民間の事業所と業務委託を行っており、担当職員の業務負担の軽減や学校教員の負担が軽減されるなど、学校現場でのスムーズなICT機器の利活用により安心した授業の実施につながっている。

栗原市では、市内18小中学校にそれぞれ40台のタブレットPCが整備されている。複数の児童生徒の使い回しでは十分にICT教育の効果を発揮することはできないと考えるので、武雄市の事例を参考にするなど、1人に1台のタブレットPCを配布できる準備を整えるべきではないだろうか。

未来あるすべての子供たちに充実した学びの環境を作り、ワンランク上の教育環境の整備を進めることこそが、地方創生につながると私は確信する。

(2) 豊後高田市の教育ビジョンについて（大分県豊後高田市）

私達の視察調査に当たり豊後高田市長はじめ、教育委員会の担当者3人が2時間以上にわたり説明してくれた。

「うちは、人口23,000人弱だが、転入者増が5年続く」と語った。児童生徒の給食費や医療費の無償化、無料の公営の塾、移住者向けの空き家バンクや宅地分譲などで、都市部からの家族を呼びこんでいる。

かつては昭和のまち、レトロなまちで名をはせた豊後高田市。並行して教育改革に取り組んで18年。早くから教育ビジョン、学びの21世紀塾づくりをはじめた。

その主な点をあげてみたい。

・土曜日学習

人口23,000人のまちで、公民館や小中学校などを活用し、算数・数学・国語・英会話・パソコン・そろばんなどを公費で開講。

各講座運営には、受付け、会場の世話など市民や教職員がボランティアで協力してくれている。

・小学生講座

算数・国語・理科の復習

講座数 平成28年度 39講座 81教室

平成29年度 60講座 115教室

・中学生講座

市内全ての学校で国語・数学・英語の復習、受験対策学習等を行っている
・英会話教室

5才児からを対象に、英語に親しんでもらうよう開設している

これらの講座・講習をささえる講師は市民45名、教職員104名の計149名。
いかに、まちをあげての取り組みであるかがわかる。普段私達は教育は大切だ、教育の
レベルアップには、学校・家庭・地域の連携が必要だと言っているが、これほどまで
に具体化して実施しているまちは、少ないのではないか。

また、市内企業に就職した大学等卒業生を対象に、奨学金返済の2分の1を5年間で、
最大100万円補助する市独自の施策も実施。新規卒者の定住に寄与しているという。









これらの市の施策により、市内には高校がひとつしかないが(1学年160人定員)、
ここ数年国立大学30人、私立大学60~90人の合格者がいるという。毎年国立大学医学
部にも合格者を出し、ふるさとでの医師の夢を実現している。自前で医師を育てようの
思いが届いている。

「教育こそが未来をつくる」という説明に、大いに納得した視察であり、栗原も今す
ぐ取り組むべきと感じた。これから、一般質問や代表質問などで提言していきたい。

5 参加議員

石川 正運議員、佐藤 久義議員、佐々木 嘉郎議員
三塚 東議員

様式第8号 (第6条関係)

決 裁	議 長	局 長	次 長	係 長	係 員
				 	  

派 遣 承 認 要 求 書

令和元年 8 月 21 日

栗原市議会議長 殿

会 派 名 政策フォーラム

代表者氏名 石川 正運



下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	1 令和元年9月3日(火) 午前7時00分から 2 令和元年9月5日(木) 午後8時30分まで
派 遣 先	徳島県上勝町
派 遣 目 的	・葉っぱビジネス(彩事業)について ・ゼロ・ウェイストについて
経 費	151,310円
派 遣 議 員 氏 名	石川正運 佐々木嘉郎 三塚東
議 長 依 頼 文 の 要 否	<input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 否
備 考	



栗原市議会「政策フォーラム」会派視察行程表

日程 令和元年9月3日(火)から令和元年9月5(木)まで

月日 (曜日)	行 程	発	着	摘 要
9月3日 (火)	栗原市役所 ~ 仙台空港	7:00	8:00	自家用車乗合
	仙台空港 ~ 神戸空港	9:15	10:40	SKY153便
	昼食等			【昼食会場(未定)】
	神戸空港 ~ 徳島駅	11:55	14:33	阿波エクスプレス神戸63号
	徳島駅 ~ 上勝町	15:00	16:30	レンタカー
	上勝町 ~ 宿泊先(上勝町内)	16:30	17:00	【宿泊先】 月ヶ谷温泉・月の宿(上勝町) TEL 0885-46-0203
9月4日 (水)	宿泊先 ~ 上勝町(視察先)	9:30	10:00	レンタカー
	【行政視察(机上調査・現地視察)】 「葉っぱビジネス(彩事業)について」	10:00	11:45	上勝町
	昼食等			【昼食会場(未定)】
	【行政視察(机上調査)】 「ゼロ・ウェイストについて」	13:30	15:30	上勝町
	上勝町(視察先) ~ 宿泊先(徳島市内)	15:30	17:00	【宿泊先】 徳島グランヴィリオ TEL 088-624-1111
9月5日 (木)	宿泊先 ~ 徳島駅	9:00	10:00	レンタカー返却
	昼食等			【昼食会場(未定)】
	徳島駅 ~ 神戸空港	13:00	15:24	阿波エクスプレス神戸70号
	神戸空港 ~ 仙台空港	17:30	18:50	SKY156便
	仙台空港 ~ 栗原市役所	19:30	20:30	自家用車乗合

視察研修結果報告書

令和元年10月1日

栗原市議会議長 佐藤 久義 殿

政策フォーラム

代表 石川 正運



視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

- 1 期 間 令和元年9月3日（火）～5日（木）
- 2 視察研修先 徳島県上勝町
- 3 目 的 (1) 葉っぱビジネス（彩事業）について
(2) ゼロ・ウェイストについて

4 調査研究内容

(1) 葉っぱビジネスについて（徳島県上勝町）

徳島県上勝町で取り組んでいる「葉っぱビジネス」の成功を学び、栗原市の活性化の参考にするため調査を行なった。

上勝町は人口1,692人で高齢化率51パーセントと高い地域である。800戸の農家の中で400戸の農家がかかわりを持ち、330種類の葉っぱ等を平成30年度で年間2億6千万円の売上高に達していた。

これまでの上勝町の主な産業は、みかん農家が多く農業収入の全てがみかん栽培の販売収入で営まれていた。

しかし、昭和56年にマイナス13℃という大寒波で町中のみかんの木が全滅になり、途方に暮れ締めムードが漂うなか、みかん栽培の指導者であった当時の農協職員が考案したのが「葉っぱビジネス」で、もみじ、柿、椿、桜の葉っぱなど、料理のつま物としての商品化する事業がはじまった。昭和61年に4軒の農家が試験的にスタート、現在に至っている。地方創生の成功例としては最も有名になっている町である。

机上での説明だけでは理解できないことが多いため、生産者の自宅を訪問して直接話を聞いた。山間地でかごを背負って収穫に行く苦労話等聞くことができたなかで、自分の通帳の入金額を見るのも楽しみだとのこと。葉っぱの生産者の平均年齢は76歳と高齢者ではあるが、生産する物が軽く持ち運びが楽なことや、輸送コストも安くて有利な

ことを上げていた。ネットワークを通じて、インターネットやスマホを活用して、現場に居ながら自分の出荷した価格をすることができ、次の日の出荷品目、数量まで調整ができ無駄がないことを力説していた。

大量生産することで逆に価格に影響するが、上勝町のような中山間地域であれば標高によって気候が変わる。その地形が多品目少量生産ができるメリットがあるとしていた。葉っぱビジネスによって、高齢者の居場所と出番をつくり、高齢者が適度の作業で体を動かすため、健康寿命にも大きな役割を果たしているのではないかと。

生産農家の方々に直接話を聞く中で感じたことは、皆さんいきいきとしていること、働くことの喜びと生産意欲に燃えていた。そのことで年齢より若々しく感じ、高齢社会の在り方がここにあると思う。高齢者の健康につながり、医療費の軽減にもなる。

今回の研修で思うことは、指導者がいかに自分の時間と金を惜しまずかけたこと。商品の販売のため東京の市場へ自費で通い、日本料理店に調査に行き、消費者ニーズを把握し、自らの地域で何があるか、何ができるかに取り組み身近にある「葉っぱ」が商品化になった。強いリーダーがいてそれに賛同する同志、それも若者が少ない町で高齢者でも取り組めるビジネス、それが「葉っぱ」であるとのこと。

環境からすれば我が栗原市もできないことはない事業ではないかと。

(2) ゼロ・ウェイストについて (徳島県上勝町)

市の一般廃棄物の最終処分場は、あと 10 年ほどで満杯になると予想されている。

そこで、ごみの徹底分別の推進で 2020 年までに焼却や埋立処分をなくす取り組みを実施している徳島県上勝町を訪ねた。

上勝町 (人口約 1,600 人) では、かつてごみは自宅で燃やしたり、埋めたり、残土処分場で野焼きをしていた。平成 9 年に野焼きを禁止し、容器包装リサイクル法に則り、9 種類の分別から始まり、平成 10 年には小型焼却炉を 2 基設置し焼却灰を他県に埋立処理をしていた。

しかし、ダイオキシンの排出基準が厳しくなったことや埋立処理に多額の運搬費用がかかることから、焼却ごみを減量することにした。その結果、平成 14 年度に分別を 34 種類にするとともに、平成 15 年度には未来の子どもたちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、2020 年までに上勝町のごみをゼロにすることを決意する「上勝町ごみゼロ (ゼロ・ウェイスト)」を宣言した。

平成 29 年度には、約 8 割を資源化することにより、213 万円の売上金の収入があり、資源の売上金は資源化に協力した住民の努力があってこそとして住民に還元するため、焼却ごみの減量や処理費用の減額が期待できる商品と交換できるサービスを始めている。

10 年後に満杯になるとされている市の一般廃棄物の最終処分場の新たな候補地や選定は急務であるが、行政、住民、事業者の創意工夫で資源を有効活用し、ごみをできる限り少なくする持続可能な循環型地域社会の実現を目指したい。

5 参加議員 石川正運議員、佐藤久義議員、佐々木嘉郎議員、三塚東議員

